

第2次東大阪市自殺総合対策計画 素案 パブリックコメントで寄せられた意見

No.	ページ	意見	市の考え
1		<p>1. 東大阪市の自殺の現状分析について、新型コロナウイルスを影響とした自殺の要因分析と背景の考察が不十分だと思う。そこからの課題分析がよく見えない。 (理由) ・計画書案5頁図5新型コロナウイルス感染症拡大前5年平均との比較において男性が令和2年は3.4人、令和3年は5.4人。女性において令和2年1.4人、令和3年が1.4人と顕著な伸びを示している。大阪府の数値をみても女性が令和2年86.8人、令和3年61.8人ということ考えれば、東大阪市が男性を始め特に女性の伸びが多い。女性の40歳代が全国平均に比べて多い。主婦の増加傾向もある。これはなぜなのか、地域特性なのか、等の分析が必要ではないか。 ・計画書案8頁図11、(4)原因・動機別自殺者数の推移で、男性の「経済・生活問題」を理由とするのが令和2年で16%であったものが、令和3年では29%に伸びている。「大阪府自殺対策計画資料編3頁図2-3」の中で、経済・生活問題における男性の自殺者数の推移では、生活苦が令和3年111人(前年94人)と理由の第1位生活苦、次に負債、事業不振、失業という順になっている。東大阪市の計画書案では、「経済・生活問題」の内訳・内容が示されていない。 ・厚労省の令和4年自殺者数の集計と分析結果からも新型コロナウイルス禍による自殺の増加傾向であることは明らかである。失業率と自殺率に連動性があることも示されている。女性の顕著な増加は、背景としてコロナ禍で打撃を受けた飲食店等や非正規雇用に従事する女性が失業し、休校等で親の負担も増え、子どもに対応する余裕もなく、悩みの末の「追い込まれた自殺」かも知れない。</p>	<p>・自殺の要因分析、地域の課題分析は自殺対策を検討する上で重要であると認識しておりますが、原因や動機については明確に特定しづらい特性があり、背景の考察についても推測に寄らざるえないところもあり、いただきましたご意見のとおり、本計画では詳細に分析を記載するのが難しい状況があります。 ・女性の自殺者数につきましては、増加傾向にあり重点的に取り組んでいくべき課題であると認識しております。女性の相談窓口の普及啓発や妊産婦への相談体制の充実を回り、女性に対してどのような支援やサービス等が求められているのか実態の把握に努め、自殺予防に努めてまいります。 ・男性の自殺者数は以前に比べると減少傾向にありますが、女性の自殺者数と比べると多い状況となっております。「経済・生活問題」に関しては社会的な問題が大きく影響していると考えられるため、広義的に様々な取組みを行い、実態の把握に努めてまいります。 ・新型コロナウイルスによる影響で自殺者数は増加しており、社会的な問題を解決していく取組みが必要であると考えております。コロナ禍の動向を踏まえ、「高齢者」や「生活困窮者」に加えて、「働く人」「子ども・若い世代」「女性」に対する取組みを重点的に行ってまいります。</p>
2		<p>2. ゲートキーパーについて。自殺対策を支える人材育成としてゲートキーパーを養成し、令和4年度末まで2,037人と令和5年度の修了者目標数1,900人を超えたとされていますが、計画書の11頁では、市民アンケートによるとそのゲートキーパーを約9割の市民が知らないか答えています。これはなぜなのか？この分析や評価の記載がありません。ゲートキーパーは、悩んでいる人に気づき、声をかけ、話を聞いて、必要な支援につなげ、見守る人のことです。ゲートキーパーや各種の支援機関等が悩みを抱えている人の周りに存在することで「身近に支えてくれる人がいる」と感じられるようなネットワークを形成することが自殺予防対策として重要かと思えます。 ゲートキーパー修了者の目標数値を掲げていますが、類型数値だけでなく、今までどの分野のどのような方がゲートキーパー研修を修了し、どこに配置されているのか、どんな活動を行っているのか、公表や啓発等はされていますか。 ゲートキーパーの養成研修やその役割の周知については、具体的な取組みの中で幾つか記載していますが、ゲートキーパーの養成を①「入門コース」2～3時間、②「基礎コース」5～6時間、③「上級コース」4～5日間など3段階に分けて機能的な人材育成プランを考えてはどうでしょうか。①は市民に身近で多様な分野の人々を数多く養成する、市民啓発に重点を置く。イメージ的には「認知症サポーター」の様な感じですが。②の人材は、対象者を発見し、傾聴し、然るべき人や機関に繋げる役割ができる人、③はソーシャルワーク的な専門知識や技術を持って自殺予防に向けた活動ができる人材を育てる、というイメージです。</p>	<p>ゲートキーパーについて、自殺対策の重要な役割を担っていると認識しており、一人でも多くの方にゲートキーパー養成研修を受講していただきたいと考えております。 現在、ゲートキーパー養成研修を実施する際に、大阪府が作成いたしました「大阪府版ゲートキーパー養成研修」を使用しており、基礎情報編とロールプレイ編があります。基礎情報編では「初級編」「中級編」「若年者支援編」と3つのコースがあり、受講される方々に合わせて講義形式で実施しております。ロールプレイ編では、ロールプレイを通して自殺を考えている人への声掛けや対応方法等を実践していただき、自殺対策の基本的な知識や技術を習得していただくプログラムとなっております。 今後もゲートキーパーの普及啓発や研修等を実施し、関係部局と協力しながら一人でも多くの方々に認知していただく取組みを行ってまいります。</p>
3		<p>3. 第5章の具体的な取組みとして「生きることの促進要因への支援」として、「居場所づくりの推進」を明記したことは大いに評価できます。新型コロナの影響が自殺率を押し上げる間接的要因になっていることは周知のとおりです。この背景には「コロナうつ」があると多くの精神科医が指摘をしています。コロナ禍の影響は社会経済基盤の弱い層に特に及んでいます。その結果、経済格差と困窮、孤立や孤独を深め、生きづらさを抱えた人々が増えていると考えます。これらは「自殺の危険因子」になりかねないものです。自殺対策は「社会づくり・地域づくり」といわれます。国は令和4年10月「自殺総合対策大綱」の中で、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を踏まえた対策の推進を追加項目に入れました。 私は、地域の中で多様な思いとカタチの居場所や通いの場が数多くあること、それが地域社会のセーフティネットの一つとして機能することが大切だと考えています。居場所の数が多ければほど自己肯定感が高く、将来への希望が大きいというデータもあります(内閣府「令和3年版子ども・若者白書(概要版)」)。全ての子どもたちが自分の居場所を感じられるそれぞれの「放課後」があり、「よく来たね」といえるような場所の確保や人との関係性があればと思います。 この居場所や通いの場づくりこそ、単なる政策的スローガンで終わらせるのではなく、具体的に様々な居場所や通いの場を行政が把握し、運営者や参加者等の話を聞き、居場所や通いの場の継続的な運営を支援することが必要だと思います。その場にゲートキーパー等が繋がりが、又は運営者がゲートキーパーの養成研修を受け、地域に気づきと繋がりができる人と場を増やすことが必要だと思います。</p>	<p>自殺対策において、居場所づくり等を行っていくことで孤独や不安の軽減につながり、自殺予防につながることを考えられます。困ったときの相談窓口や利用できる施設やサービス、ゲートキーパーの普及啓発を行い、地域の中で孤立のリスクを防ぐための取組みを推進してまいります。</p>
4		<p>ここ数年、自棄の為、テレビ報道を観る機会が多くなっていると思われます。 悲しいことに、戦争や、感染症、そんな報道の毎日で、誰に会う事もなく、未来に対する希望するも抱けず、その道を選ぶしか無かった方々も多かったでしょう。 飲食店を始め、経済的な苦痛が原因の方も居られたのではないかと思います。 経済的な苦痛は、支援という形で、防げる事は可能かと思いますが、未来に希望が持てないのが、大きな問題だと捉えます。 その人らしく、自己肯定感を持つ方なら乗り越えられる壁もありますが、まるで100点が一番良いとお考えの方が、苦しんでおられるのではないのでしょうか。 皆、等しくして産まれ、どうしてその様になっていくのか、その人数の多さには、何らかの原因があり、それを追求する事が、阻止できる唯一の方法だと思います。</p>	<p>自殺の大半は様々な問題が複雑に絡み合い、追い込まれた末の死であると言われております。庁内外の関係機関と連携し、「誰も自殺に追い込まれることのない社会の実現」を目指し、自殺対策に取り組んでまいります。</p>